

聖書日課 『からし種』 2024.12.8-12.15

<p>12月8日 (日) ホセア 1章</p>	<p>「行け、淫行の女をめとり/淫行による子らを受け入れよ。この国は主から離れ、淫行にふけているからだ」(2節)。自分の妻が不義を働き、その淫行の子供たちを受け入れ生活をしていく。こう神から言われたホセアはその通りにしたが、とても辛かったと思う。神が淫行の国、北イスラエルを受け入れて傷んでいることを示したのだろう。</p>
<p>9日 (月) ホセア 2章</p>	<p>「彼女は知らないのだ。穀物、新しい酒、オリーブ油を与え/パアル像を造った金銀を、豊かに得させたのはわたしだということを」(10節)。ゴメル(ホセアの妻)は恋人たちや他の神々を追い求めるために、自分の持ち物を浪費した。神こそが祝福の与え主であることに気付いていなかった。私たちが主が祝福を与えられることを忘れないことだ。</p>
<p>10日 (火) ホセア 3章</p>	<p>「イスラエルの人々は帰ってきて、彼らの神なる主と王ダビデを求め、終わりの日に、主とその恵みに畏れをもって近づく」(5節)。北イスラエルは長い間、王も高官もなく孤立していた。しかし、人々は彼らの神を求め、主の恵みに畏れを持って近づくという。これは、メシアが治める時を示唆しているのだろう。神の愛による赦しが来る。</p>
<p>11日 (水) ホセア 4章</p>	<p>「主の言葉を聞け、イスラエルの人々よ。主はこの国の住民を告発される。この国には、誠実さも慈しみも/神を知ることもないからだ」(1節)。神はイスラエルの不従順の罪を責めている。国は、神が授けた律法を破り、靈的にも道徳的にも退廃していた。神の願いはなんだろうか。こんな民をも救いにあずからせる大きな愛を示されることになる。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.12.8-12.15

<p>12日 (木)</p> <p>ホセア 5章</p>	<p>「わたしは立ち去り、自分の場所に戻っていよう。彼らが罪を認めて、わたしを尋ね求め／苦しみの中で、わたしを捜し求めるまで」(15節)。神はイスラエルとの関わりをやめ、ご自分の場所へ戻られた。神は彼らに自分の行動の責任を負わせた。それは、神を捜し求めるまで、という期限付き。神は、民が立ち返るのを待っておられる。</p>
<p>13日 (金)</p> <p>ホセア 6章</p>	<p>「わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない」(6節)。「さあ、我々は主のもとへ帰ろう。」という言葉から始まるので、悔い改めだと思ったが、神は「お前たちの愛はすぐに消えうせる露のようだ」と述べている。神は、儀式ではなく真実な愛を持って神を知ることをお求めおられる。</p>
<p>14日 (土)</p> <p>ホセア 7章</p>	<p>「イスラエルを罪に落とすのは自らの高慢である」(10節)。高慢によって、人は神に目を向けようとしない。高ぶる心は、人に対しても神に対しても助けを求めようとしないからである。高慢によって、罪はさらに深くなる。高慢を捨てない限り、私たちはどのような罪についても悔い改めることができない。神に従い、助けてもらおう。</p>
<p>15日 (日)</p> <p>ホセア 8章</p>	<p>「エフライムは罪を償う祭壇を増やした。しかし、それは罪を犯す祭壇となった」(11節)。人々は暮らしが豊かになるにしたがって祭壇を増やした(10:1)が、それは「もっとほしい！」という欲望の祭壇だった。しかし主なる神が求めるのは感謝と献身の祭壇である。「あなたのあふれる恵みを感謝します。この恵みを分かち合い生きる信仰と愛を与えてください」。</p>